

目標達成計画

作成日: 平成28年12月25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	18	週4回の食事作りの際は、職員も入居者様と一緒に食事をしている。三食以外にも10時の水分提供・15時のおやつ提供を行っており、そのような機会にも入居者様と職員が同じ場に座り、触れ合う機会を強化していくことが必要である。それにより、さらなるコミュニケーションの場が発生することにつながる。	共同生活という名のもとで入居者様と同じ事柄を職員も行いながら、コミュニケーションを図ることでお互いの理解を深めていく。	10時・15時の水分提供時に、入居者様と一緒に職員も食卓を囲む。職員は業務の手を一旦止めた上で、入居者様に水分摂取を行いつつ、目線を合わせたコミュニケーションのひと時を設ける。	3ヶ月
2	21	以前は、ユニット入居者様全員で外出の機会を設けたことがあったが、現在は個別ケア・両ユニット合同外出へ移行している状況である。ユニット入居者様での屋内レクリエーションを提供しているが、楽しみにされている外出においても、いろいろな方同士での関係性向上に寄与させて頂く必要がある。	ユニットという一つのグループ内での関係性を向上して頂く。	暖かい時期に、ユニット入居者様全員での外出支援を行う。入居者様の御意向も汲み取りながら行き先を決定し、入居者様同士のコミュニケーションを図って頂けるように外出先でも支援を行う。	6ヶ月
3	18	グループホーム以外の接点ができるお買い物は、社会性を高める有効なアクティビティであり、入居者同士お話をしながら食材を選んだり、食べたいおやつを購入する機会である。そのことを理解した上で週に1~2回程度外出支援を実施しているが、さらに自己決定や自立支援を意識することにより、中身の濃い支援につながると考える。	自己主張をあまりされない方や認知症の中核症状により判断力が低下した方に対しては、自己決定の場が提供できるよう支援する。	食材、おやつ選びに対してうまく想いを表出することが難しい入居者には、季節に応じた旬な食材を提案したり、クローズドクエスチョンを上手く使うことで、入居者との会話を広げて自己決定の機会を増やす。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。